

○優良経営体の紹介

○株式会社 菅谷農産〔真岡市〕：ねぎ・キャベツ・にんじん

1 経営概要

○栽培品目（栽培面積）：ねぎ（24ha）、キャベツ（6.0ha）、にんじん（5.5ha）、水稻（15ha）

○露地野菜の出荷先：ねぎは生食用がメインで、一部、加工・業務用

キャベツ・にんじんは加工・業務用

○農業従事者：家族3人、他30人〔研修生含む〕

◎ねぎの作型・作業体系

作型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月											
晩生	○	—	▽	—	—	—	—	—	—	—	—	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■												
春どり							○	—	▽	—	—	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■												
夏秋どり①									○	○	—	▽	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■												
夏秋どり②									○	○	—	▽	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■												
秋冬どり										○	—	▽	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■												
秋冬～春どり													○	○	—	▽	—	—	—	—	—	—	—	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
冬春どり①														○	○	—	▽	—	—	—	—	—	—	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
冬春どり②															○	○	—	▽	—	—	—	—	—	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	

◎にんじんの作型・作業体系

作型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月										
秋冬どり																		○	○	—	—	—	—	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

◎キャベツの作型・作業体系（計画合）

作型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月										
秋冬どり																	○	○	—	▽	▽	▽	—	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■



ねぎほ場



ねぎ選果場



キャベツ収穫機



ねぎの薬剤散布

2 経営の特徴

- ねぎ、キャベツ、にんじんとも、栽培・出荷に係わる作業に省力化機械を積極的に導入し、作業効率を改善して規模拡大を実現した。
- 労働力の平準化として、冬期にねぎのほ場管理が少なくなり労働力が余剰になるため、冬期に収穫可能なにんじん、キャベツを導入した。
- 野菜の販路は自身で確保し、特にねぎにおいては「栃木ねぎ組合」を立ち上げ、スケールメリットを最大限に活かした有利販売を心掛けている。
- 令和3年9月に、足利市の法人経営体と連携した組織を立ち上げ、土地利用型園芸メガ産地育成事業を活用した県内初の土地利用園芸メガ産地づくりとして着手した。

3 今後の目標

- 土地利用型園芸メガ産地として産地づくり基本構想の目標達成に向け、令和5年度には、ねぎを中心に90ha超の作付けを目指し、価格交渉力の強い経営を実践したい。
- また、規模拡大にあたり、作業効率を改善するため、農地の集積・集約に取組み、露地野菜の団地化ができるよう関係機関と連携し取り組みたい。

○エスミット株式会社〔益子町・茂木町〕：キャベツ・白菜・レタス他

1 経営概要

○栽培品目（栽培面積）：キャベツ（14ha）、白菜（0.4ha）、レタス類（2ha）、にら（0.88ha）
たまねぎ（0.4ha）、ジュース用トマト（1ha）

○露地野菜の出荷先：加工・業務用の契約栽培で、一部、JA・市場へ出荷

○農業従事者：14人（取締役3名、従事者10名、研修生1名）

◎キャベツの作型 ○播種、▽定植、▲移植、□保温、網掛け：収穫

作型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
春どり										○	---	○										○	---	○
秋冬どり	▽	■	■	■	○	○							▽	▽	■	■	○	○				▽	▽	

◎はくさいの作型

作型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
秋冬どり					○	---	○										○	---	○					
					▽	---	▽	■	■								▽	---	▽	■	■			

◎レタスの作型

作型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
秋どり				○	○	■	■										○	○	■	■				
春どり	■	■									○	○	■	■									○	○

◎たまねぎの作型

作型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
秋まき			■	■		○	---	▽							■	■		○	---	▽				

◎ジュース用トマト

作型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
夏どり	▽			■	■									▲	▽	■	■							▲

◎にらの作型

作型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
秋冬どり																								○
			▽	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
夏どり			▽													■	■							○
																■	■							



キャベツの育苗



キャベツ圃場



芳賀台の畑灌利用による灌水



リーフレタスの収穫

2 経営（会社）の特徴

- 平成 21 年 11 月、益子町に(株)ジーワンを立ち上げ、益子町役場の協力により、葉たばこ跡地の農地を確保し、キャベツ、レタス等の契約出荷を開始した。その後、令和 3 年 7 月にエスミット(株)を設立し、同年 8 月から(株)ジーワンの益子・茂木農場を事業継承し、現在に至る。
- 営農開始後、国営芳賀台地農業水利事業を活用し、圃場近くまで吸水口を設置した。これにより定植直後から計画的な灌水ができ、労働時間の削減と計画的な出荷に一役を買っている。
- 作業体系は、労働時間の削減のため、手作業（播種・定植・収穫作業）と機械作業（施肥・薬剤散布）を組合せている。
- 計画に沿った生産の実現のため、年間スケジュールに沿った播種・定植を行うとともに、天候や生育に合わせた薬散・灌水を徹底している。
- より一層の経営安定を図るため、平成 24 年度からは冬期の余剰労力を活用し、毎月の収入が見込める施設野菜の「にら」を導入した。

3 今後の目標

- 自社の取組結果が実需者の調達計画に影響するので、より計画的な作付を行い、引き続き実需者の期待に応えられる経営を実践していく。
- 経営規模について、露地野菜は概ね現状維持で、今後は施設にらを拡大し、更なる収益の確保を目指していきたい。

○小林 文夫 氏〔真岡市〕 水稻＋たまねぎ

1 経営概要

- 栽培品目（栽培面積）：たまねぎ（3.2ha）、水稻（1.4ha）
- 露地野菜の出荷先：市場出荷（JA・中間事業者）
- 農業従事者：2人（繁忙期（定植、収穫）パート雇用15人）

◎たまねぎの作型

作型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
秋まき						○	▽	▽										○	▽	▽				



乾燥・調整施設
（コンベアー奥が選別機）



選別機

2 経営（会社）の特徴

- たまねぎは重量作物であるため、調整施設に10台のベルトコンベアーを連結して運搬作業の労働負荷を軽減している。
- 生産性向上のため、土づくりを重視し、毎年15か所のは場全てで土壌分析を行い、診断結果に基づいた施肥を心掛けている。堆肥は、堆肥置き場（300㎡）を設置し、もみ殻堆肥を自作して施用している。
- たまねぎは連作により黒腐菌核病の発生が問題となっているため、水稻との輪作や土壌消毒、堆肥の投入を行っている。
- 水田でたまねぎを栽培すると、畑に比べ品質が良く、病気や雑草の発生が少ないメリットがある。一方で、初作（畑含む）の場合は肥大がやや劣る傾向があるため、リン酸の施用を心掛けている。
- 現在のたまねぎの作付は320aで、うち借地は99a。借地のうち、農地中間管理機構を通して56aを借り受け、たまねぎは場は自宅から1km以内に集約化している。

3 今後の目標

- 今後は作付面積と単収（6～7t/10a）を維持し、販路の開拓により、高値販売と出荷経費の低減により収益性の向上に努めていきたい。

○古谷康典〔芳賀町〕酪農＋水稲＋たまねぎ他

1 経営概要

- 栽培品目（栽培面積）：たまねぎ（200 a）、水稲（800 a）、飼料用米（800 a）、酪農（経産牛 28 頭）、飼料用トウモロコシ（400 a）、イタリアンライグラス（800 a）
- 露地野菜の出荷先：市場出荷が中心で、加工・業務出荷や地元の学校給食に出荷
- 農業従事者：家族 3 人、研修生 1 名

◎たまねぎの作型

作型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
秋まき			■	■		○		▽▽							■	■		○		▽▽				



育苗ほ場の太陽熱消毒



たまねぎ大区画ほ場

2 経営（会社）の特徴

- 省力化を常に意識しており、ここ 5 年間で積極的に規模拡大しながら機械投資を行い、機械化一貫体系を整備した（たまねぎ栽培の推移：平成 28 年産：50 a、29 年産：100 a、30 年産：150 a、令和元年産：180 a、2～3 年産：200 a）。
- 「苗半作」と言われているとおり、健苗の生産がたまねぎの安定生産に重要なので、高温期に早めに透明マルチで育苗ベットの被覆し、太陽熱消毒を実施している。
- たまねぎは令和 2 年産から 2 ha を作付けしている。作業効率を高めるため、農地中間管理機構を通して農地（水田）を借り入れ、自宅裏にはほ場を集約（団地化）した。また、畑として使いやすいうように自力で畦畔を除去し、複数枚のほ場を 1 枚の大区画とした。
- 通常、たまねぎのマルチ栽培は、4 条植えが多く、管理するための通路の本数が多くなる欠点がある。そこで、作業機械の改良（半自動定植機〔2 条植え〕のタイヤを逆に向けて付け替え）を行ったことで、6 条植えが可能となり、単位面積当たりの栽植本数が増え、収益性が向上した。

3 今後の目標

- 水田フル活用として、既に主食用米、飼料用米、飼料用作物、露地野菜の作付に取り組んでいるので、酪農も含めて現状を維持した営農に取り組んでいく。
- 出荷時の労働軽減を図るため、鉄コンテナでの出荷に取り組めるよう改善していく。

○永尾 猛 氏〔茂木町〕キャベツ・とうもろこし・アスパラガス

1 経営概要

- 栽培品目（栽培面積）：キャベツ（330 a）、とうもろこし（100 a）、アスパラガス（7.5 a）
- 露地野菜の出荷先：市場出荷、地元の道の駅、町外の直売所
- 農業従事者：2人（繁忙期パート2名）

◎キャベツの作型

作型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
秋冬どり			○	○	▽	▽	■	■	■	■	■	■												

◎とうもろこしの作型

作型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
露地			○	○	■	■																		

◎アスパラガスの作型

作型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ハウス			立茎 →	立茎 →	立茎 →	立茎 →	立茎 →	立茎 →	立茎 →	立茎 →	立茎 →	立茎 →												
													地上部刈取り 保温											地上部刈取り 保温



中山間地域でのキャベツ栽培



とうもろこし

2 経営特徴

- 千葉県からの新規参入で、茂木町に就農し、今年で18年目を向える。参入当初は施設野菜のアスパラガスを作付していた。3～4年目に露地野菜の白菜、大根、キャベツ、とうもろこしを導入し、その後作付品目を絞り、現在に至る。
- キャベツは高温期の対策として、スーパーセル苗に取り組んでいる。省力化機械として半自動移植機とブームスプレイヤーを導入し、キャベツ、とうもろこしで利用し、作業の効率化に努めている。
- 作付ほ場は全て畑であるが、安定生産のために土づくりを重視し、全ほ場土壌診断に基づいた適正施肥に努め、堆肥は地元の美土里堆肥を使用している。また、サブソイラーを施し排水性を改善したり、根こぶ病対策として緑肥作物を栽培している。

3 今後の目標

- 作付圃場は大まかに町内6地域 10か所に点在しているため、作業効率を高めるためほ場の集約を検討したい。
- 作付品目と規模は現状維持で、安定生産により収益率向上を目指したい。

○宮城 功 氏〔益子町〕にんじん・水稲

1 経営概要

- 栽培品目（栽培面積）：にんじん（400 a）、水稲（20 a）
- 露地野菜の出荷先：市場出荷（J A・中間業者）、道の駅（加工品含む）
- 農業従事者：4人（内、パート雇用1名）

◎にんじんの作型

作型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
秋冬どり				○	—	—	—	■	■	■	■	■				○	—	—	—	■	■	■	■	
春夏どり	■	■	■	■					○	○	—	—	■	■	■						○	○	—	—



にんじんほ場



収穫直後のにんじん

2 経営の特徴

- 落花生からの転換で平成29年からにんじんを作付開始した。1年目には収穫機、洗浄機を導入するとともに、田植機にブームスプレーヤーを設置し、中耕・除草・防除作業を同時でできるように改造したが改善点もあり、2年目には乗用管理機を導入した。なお、出荷はコンテナやフレコンを活用している。
- 播種はトラクターけん引タイプのごんべえを使用していたが、令和2年度に土地利用型園芸モデル産地の構成員となり、補助事業の活用により乗用播種機を導入したことで、播種から収穫・選果まで機械化一貫体系を整備した。
- にんじんは省力化機械の導入に併せて、「夏まき秋冬どり」作型に加え「春まき夏どり」作型を導入し、作期の拡大に努めている。
- 土づくりの一環として、毎年1 haは緑肥代わりとして小麦を輪作している。

3 今後の目標

- にんじんの作付規模は、導入した機械をフル活用することで500 aまで拡大していく。
- 販売は、予冷庫を活用した貯蔵出荷により端境期を狙った出荷に取り組み、所得アップを目指していきたい。